

初企画「ろうの方との交流会」から多くを学ぶ

～難聴の子を持つ家族会そらいろ 第11回定例会報告～

福岡市を拠点に活動を行う難聴の子を持つ家族会そらいろ（福岡市、会長：岩尾至和、以下「そらいろ」）は、2019年10月13日（日）に、当家族会メンバーを対象として、「ろうの方との交流会」を開催いたしました。

【本件のポイント】

パネリストにろうの方のご家族をお招きしてコミュニケーションの現状を知るとともに、交流体験を通じて相互理解を深めることを目的とした同企画に17家族が参加。



今回で11回目となる定例会は「ろうの方との交流会」をテーマとし、17家族が参加しました。デフファミリー（ろうの方のご家族）3家族をお招きし、前半は手話通訳士をつけてろうの方の現状を知り、後半は手話通訳士を介さないでどれだけコミュニケーションが取れるかを実際に体験していきました。

前半のテーマのひとつ『社会でのコミュニケーション場面で困っていること・その対策』では、「会議など複数人の会話では正確な情報把握が困難」「周りが多忙なために聞き返すことをためらってしまい、結果的に情報伝達不足・遅れが生じる」といった働く上でのリアルな声が上がりました。また「電話における本人確認方法の不都合さ」「話せる（ある程度声が出せる）ことで、聴こえていると誤解される」など苦労話も飛び出しました。『手話ができない人とのコミュニケーションが取りやすかった経験』においては、「外国では（外国語ができなくても）それなりにコミュニケーションが成立する」という意見が出ました。ジェスチャーと豊かな表情がそれを可能にしているのですが、意志疎通を図る上での大きな学びとなりました。

後半のフリートークでは前半で学んだ“表情”を意識することで、子育てや仕事など多くの話題で盛り上がりました。質疑応答・グループシェアで気づきの共有をする中で「お互い遠慮していた」「会話することを諦めなければ意思疎通は可能」という前向きな意見と共に相互理解が深まっていきました。

参加者からは「『話せるから聴こえているわけではないことを知って欲しい』というパネリストの言葉が印象的。この理解を少しでも広げていけたら。」といった声が上がりました。

当家族会は、今後も難聴児の子育てをしやすい環境づくりを目指した活動を展開してまいります。

【第11回定例会の概要】

日時：2019年10月13日（日）10時～12時

会場：福岡市民会館 練習室B

参加者：当家族会メンバー、ろうの方のご家族

内容：ろうの方との交流会（コミュニケーションに関するお話・質疑応答・グループシェア等）

【本件に関するお問い合わせ先】

難聴の子を持つ家族会 そらいろ <https://sorairofukuoka.jimdo.com/>

担当：岩尾（いわお） e-mail：yukikazu_iw203@blue.plala.or.jp